

JR連合 国交省(鉄道局)との 意見交換開催



鉄道局総務課企画室 山口室長(左) JR連合上村副会長(右) 要望書手交

4月27日、JR連合は国交省(鉄道局)との意見交換を開催し、貨物鉄産労からは辻村書記長が出席しました。

冒頭、JR連合を代表して上村副会長より、コロナ禍で疲弊しているJR産業の現状を訴え、続いて、各単組より現場の実情等を説明し、辻村書記長からは「モーダルシフトと言われ続け30年近く経過するが、ほとんど前に進んでいないのが現状である。この間、高速道路は延伸され、トラックの性能も格段に上がっておりトラック業界には追い風である。また、近い将来には排ガスを排出しない車両が出来ると予想され、鉄道貨物にはマイナスとなる。日本の物流はトラックが中心であることは間違いないが、トラック・鉄道・船舶・飛行機をミックスした物流システム構築を図って頂きたい」と強く訴えました。

鉄道局からは、「大手自動車メーカーが鉄道輸送に力を入れていることは承知している。トラックが全てとは全く考えておらず、要望された物流システムを構築するよう考えていきたい」と発言されました。

